

体験ブーススタンプラリー 当日の様子

①VR体験

- ▶ 大規模地震発生時に密集市街地で発生する火災の様子をVR（バーチャルリアリティ）で体験しました。



②起震車体験

- ▶ 1923年の関東大震災に近い揺れ（震度7）を体験し、揺れが起こったときの対応を学びました。



③液状化実験

- ▶ 地震時に地盤が泥水のような状態になる液状化のメカニズムを実験を通して学びました。



④非常用トイレ

- ▶ 地震後はトイレが使えなくなる可能性があります。非常用トイレの必要性和自宅での使用方法を学びました。



⑤ガス復帰操作体験

- ▶ 震度5程度の地震が発生すると、自動的にガスが止まるマイコンメーターの復帰操作方法を学びました。



⑥非常時の食事

- ▶ 非常時に食べ物を備えていても、食器が人数分・避難日数分ないことがあります。身近なもので食器を作り、試してみる体験をしました。



《閉会のあいさつ》

このワークショップにこんな多くの方々に参加していただけたとは思っていませんでした。どこかの番組ではありませんが、「ボーッと生きてんじゃないよ」と言われたいように、赤松町を防災の観点から見直してみようというのが今回の目的でした。

第2回・第3回と続いていきますので、これからも是非皆さんに参加していただきたいと思います。

参加者の声

- これだけ身近な話題について情報をもらえるチャンスは少ないと思う。
- 地域の特性が分かりやすく説明され、その変化に見合った対応が必要と思った。
- 「非常時の食事」の容器から作るというのはいい体験でした。「液状化実験」では液状化していく様子がよく分かりました。



小和田地区まちぢから協議会
辻堂駅西口周辺まちづくり部会 小宮会長

防災×まちづくりワークショップ 今後の予定

回数	日付	時間	概要
第1回 (終了)	令和元年 11/24(日)	13:30～ 15:30	基調講演 & 体験ブーススタンプラリー 防災“も”まちづくりと大地震時の状況について学ぼう。
第2回	令和元年 12/22(日)	13:00～ 15:30	まちあるき「赤松探偵団」 赤松町周辺をクイズを解きながら楽しく歩き、新たな発見をしよう。
第3回	令和2年 1/26(日)	13:30～ 15:30	教えるマップ作成 & グループ討議 まちあるきで発見した、まちの良いところをまとめたマップを作成し、課題は解決の方向性を考えてみよう。

小和田地区 防災“も”まちづくりニュース ～第1回 防災×まちづくりワークショップ～



防災×まちづくりワークショップを開催!!

小和田地区まちぢから協議会の辻堂駅西口周辺まちづくり部会は、地域住民の皆様の防災意識の啓発及び防災まちづくりに取り組むきっかけ作りとして、茅ヶ崎市と全3回のワークショップをYU-ZUルームで実施することとなりました。このワークショップのために、今年の6月に「企画検討会」を立ち上げ、これまで全10回の話し合いを実施し、準備を進めてきました。

第1回は、「防災“も”まちづくり」の基本的な考え方を、東京大学生産技術研究所の加藤孝明教授の基調講演から学び、体験学習を通して大地震時の身のまわりの状況をイメージするワークショップを実施しました。



企画検討会の様子

11月24日(日) 第1回 防災×まちづくりワークショップ プログラム

《開催のあいさつ》

小和田地区まちぢから協議会
新倉 昭人 会長

《地域の基礎データ》

小和田地区（赤松町・本宿町）の基礎データ

①まちの変遷
赤松自治会 風岡 学 副会長

②基礎データ
茅ヶ崎市 都市政策課

《基調講演》 テーマ

「地域から進める防災“も”まちづくり」

講演

東京大学 生産技術研究所
加藤 孝明 教授

《体験学習》

体験ブーススタンプラリー

《アイスブレイク》

赤松町クイズ

《閉会のあいさつ》

小和田地区まちぢから協議会
辻堂駅西口周辺まちづくり部会
小宮 宏文 会長

《開会のあいさつ》

先日の台風19号では、相模川や小出川の水位が堤防ぎりぎりまで上昇しました。茅ヶ崎市では、災害対策本部が設置され、多くの人が避難しました。今回は大きな問題は起こりませんでしたが、今後はどのような被害があるか分かりません。地域の中には標高が高いところや低いところがあり、どのような被害が出るか想像するのは難しいと思います。第2回ワークショップではまちあるきも行いますので、ぜひ、まちの高低差も意識しながら参加してもらいたいと思います。



小和田地区まちぢから協議会
新倉会長

